

自然家族事業 6 講座を実施しました。

「里の日」① 「里山の日」①～オタマジャクシとあそぼう～ 「里山の日」②～樹木観察と名札付け～



サツマイモの苗を植えました。



春日山公園ビオトープで生きものつかみ



樹木の観察をして名札をつけました。

「川の日」①～大宮川探検～ 「びわ湖の日」①～湖の学校～ 「川の日」②～大石川探検～



水質検査や水生生物の観察をしました。



プランクトンや底生生物を観察しました。



水生生物や魚を捕り観察しました。

大津市センター今後の事業予定（2019 年度後期）

おおつ市民環境塾 2019 後期

- 講座5 講演と実演「生ごみ堆肥化に学ぶ」 11月2日（土）13：30～16：30
場所：明日都浜大津ふれあいプラザ5階大会議室 定員：30名
講師：(株)EM 研究所 山岡宏光氏、 大津市廃棄物減量推進課
- 講座6 エコ料理教室「エコで得して楽しく食べよう」 11月22日（金）10：00～13：00
場所：平野公民館2階調理室・会議室（JR 膳所駅すぐ） 定員：15名 参加費：500円
指導：おおつ環境フォーラムエネルギープロジェクト
- 講座7 講演「省エネと再エネのすすめ」 1月18日（土）14：00～16：00
場所：明日都浜大津ふれあいプラザ4階視聴覚室 定員：30名
講師：産業技術総合研究所主任研究員 歌川 学氏
- 講座8 体験学習「菜の花まつり 食べよう菜の花」 2月29日（土）10：30～12：30
場所：雄琴菜の花畑（雄琴2丁目）雨天時は3月1日 定員：25名
指導：おおつ環境フォーラム菜の花プロジェクト

おおつプラットフォーム事業

現行の「大津市環境基本計画」が改定期を迎えます。2021 年度からの次期計画の策定にあたり大津市が取り組むべき目標について市民・事業者・行政が一堂に会して、多くの関係者のご意見をお聞きするワークショップを開催します。開催日は令和2年2月1日（土）の予定です。現行の基本計画は右の QR コードからご覧になれます。



大津市地球温暖化防止活動推進センター（特定非営利活動法人 おおつ環境フォーラム）
〒520-0047 大津市浜大津 4-1-1 明日都浜大津 4F Tel：077-526-7545 Fax：077-526-7581
E-mail：info@otsu.ondanka.net HP：http://otsu.ondanka.net/ 編集責任：森口 行雄



8/3、自然家族事業「湖の学校」

大津市地球温暖化防止活動推進センター情報誌

センター通信

No.13

2019 年度 秋号

地球温暖化 NOW！講演会開催 京都大学防災研究所 教授 中北英一氏

残暑なお厳しい8月31日（土）、明日都浜大津ふれあいプラザホールにおいて、14時から2時間にわたり、京都大学防災研究所の中北英一教授を講師に招き、2019年度環境省二酸化炭素排出抑制対策補助金事業として、「地球温暖化 NOW！」を開催しました。「防災の日」を前に、聴講の皆さんには気の引き締まる講座となりました。そのご講演要旨です。

～地球温暖化の影響が出始めたのではない～
今年8月末九州北部（佐賀）を襲った集中豪雨の被害は皆さんの記憶に新しいところです。昨年（平成30年）7月の豪雨では多くの地点で72時間雨量の記録が更新され、200名を超える犠牲者が出ました。また同年9月の台風21号では大阪湾周辺でこれまでにない高潮被害が発生しました。これらの災害の頻発は、地球温暖化の影響が出だしているのではない、これまでの常識が通用しなくなっているのではない、しかも豪雨・土砂崩れ・洪水・高潮といった複合災害が今後、より頻繁に、より強力に、そしてこれまで未経験の地域にも起こるのではないかと不安を社会が抱くようになってきているといえます。自己組織化された積乱雲ファミリーによってもたらされる典型的な集中豪雨も目につくようになってきました。

一方、平成27年には尾瀬沼では記録的な少雪となっています。琵琶湖の水資源についても雪解け量の減少や蒸発量の増加により渇水期の水位は大幅に低下する恐れがあります。

これまでの科学的な研究の成果として、「気候システムの温暖化には疑う余地がないこと」、「気候システムに対する人間の影響は明らかであること」、「気候変動を抑制するには温室効果ガス排出量の大幅かつ持続的な削減が必要であろうこと」、が明らかとなってきています。CO2などの温室効果ガスが地球のふとんのような役割を果たすのです。

～気候変動にどう適応していくか～
温暖化によって起る気候変動の影響リスクに対してどう適応していくかという問題があります。

図にあるように、災害外力によりリスクは右上がり（赤い線）で高まっています。地球の平均気温が産業革命以来4℃程度上昇すると仮定した将来予測では、日本が台風に襲われる回数は若干減るが強力な台風に襲われる危険性が高まると推測されます。もちろん温暖化を抑制する対策（緩和策）が不可欠（黒の矢印）ですが、それとともに、進行する温暖化に適応する能力を高めていく対策（青い線、矢印、適応策）によって、影響リスク（黄の矢印）の幅を縮めていくことが大切です。

～適応に向けて大切なこと～

進行する地球温暖化に対して後悔しない適応をするためには、科学的な気候変動の将来予測を軸にした適応が必要です。

それには「気候変動下での最悪ケース群を想定する」、「不確実な中で後悔しない意思決定をする」、「猛暑や水不足など普段のじわじわ変化にもうまく適応する」ことが必要です。

さらに、治水の基礎力の増強、リスク管理能力の向上、自助・共助による防災力の向上が喫緊の課題となっています。これらの対策は、多くの時間を要する上に、じわじわとでも地球温暖化の進行速度の方が早いとい

